

一二七〇番

こもりくの 泊瀬の山に 照る月は 満ち欠けし
けり 人の常なき

一二七一番

遠くありて 雲居に見ゆる 妹が家に 早く至ら
む 歩め黒駒

一二七二番

大刀の後 鞘に入野に 葛引く我妹 ま袖もち
着せてむとかも 夏草刈るも

一二七三番

住吉の 波豆麻の君が 馬乗衣 さひづらふ
漢女をすゑて 縫へる衣ぞ